

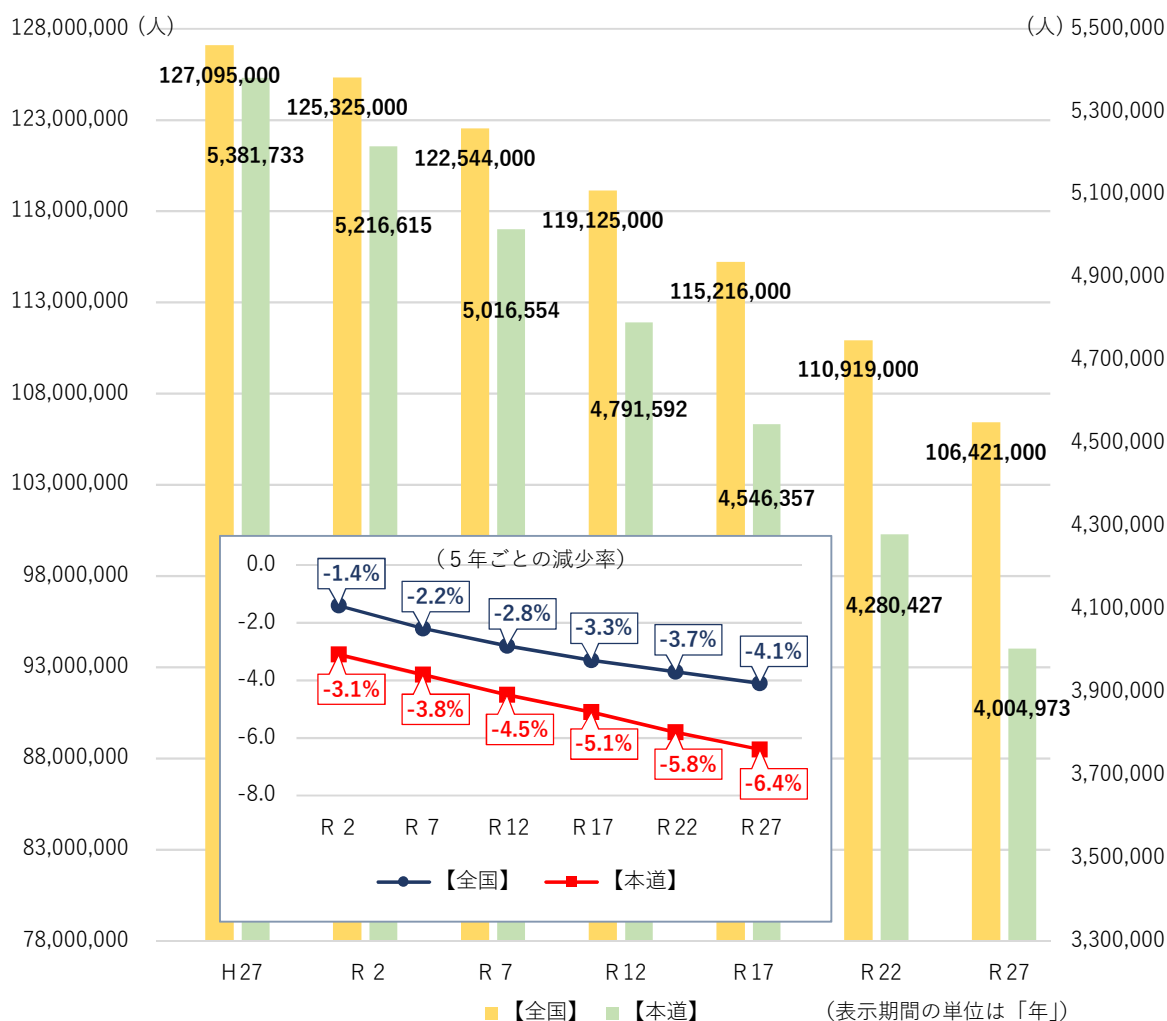
1 少子高齢化等の動向

- ▶ 本道では、全国平均以上に少子高齢化や人口減少が進展しており、地域福祉の推進に当たっては、こうした動向を把握・分析の上、地域特性を踏まえた施策を展開していく必要があります。
- ▶ ここでは、道の特性を明らかにするため、「地域福祉を取り巻く状況」として、地域生活課題と密接に関連する統計データを全国値と比較して掲載しています。

(1) 人口の推移と将来推計

本道における人口のピークは平成9年の約570万人であり（全国のピークは平成20年の約1億2千800万人）、平成10年から減少を続け、現在も全国を上回るスピードで人口減少が続いています。

このままの状況が続いた場合、本道の人口は、令和27年には約400万人になると推計されています。

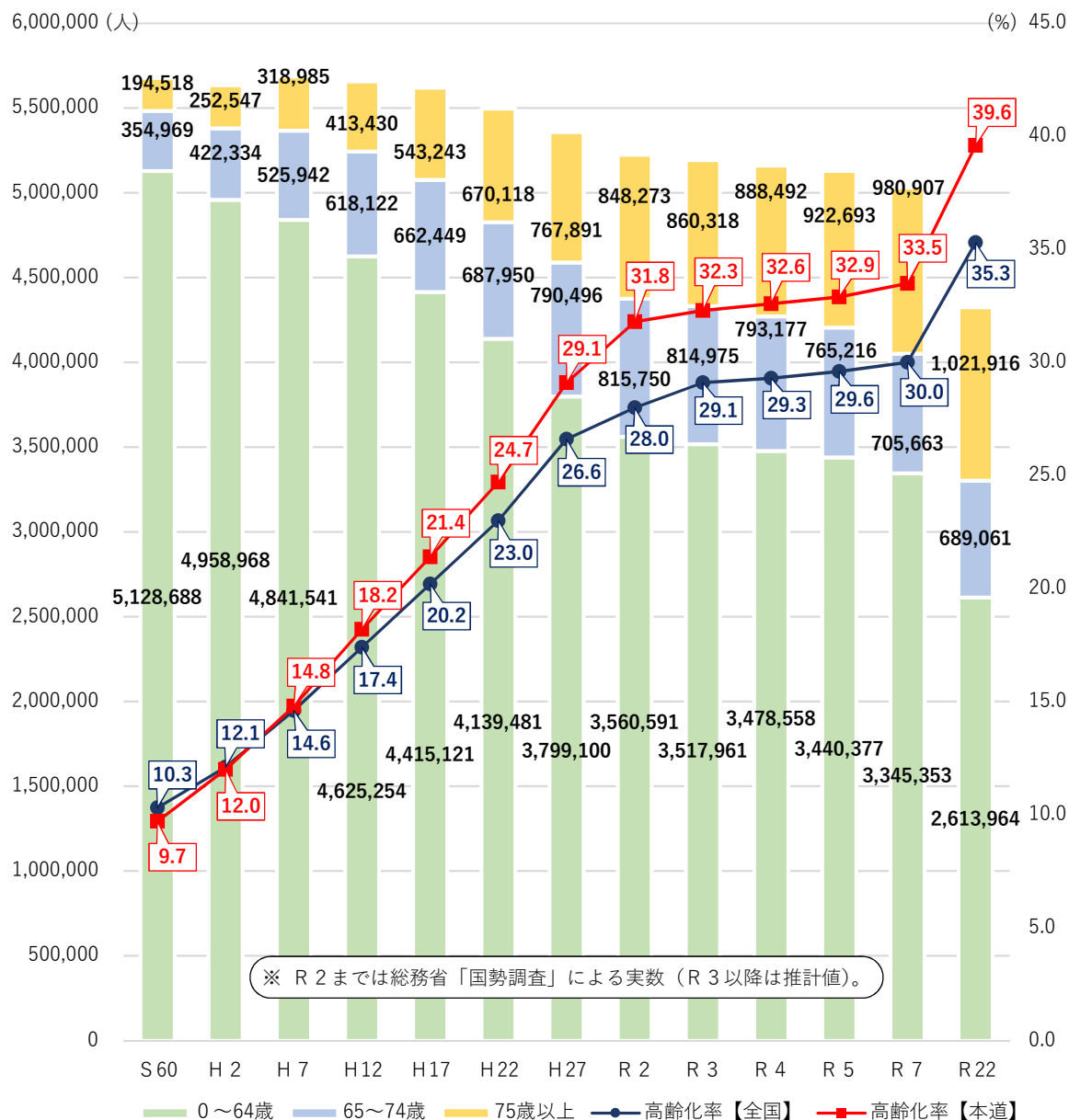


〔資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30(2018)年推計）」※ R 2以降は推計値〕

## (2) 高齢者人口と高齢化率

本道の高齢者人口（下表「65～74歳」と「75歳以上」の合計値）は、平成12年に100万人を超え、平成27年には約155万8千人となり、令和5年には168万8千人となる見込みです。

また、本道の高齢化率（総人口に占める高齢者人口の割合）は、今後、全国平均を上回る伸びで増加し、「団塊の世代」が75歳以上となる令和7年には33.5%、「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる令和22年には39.6%に達すると推計されています。

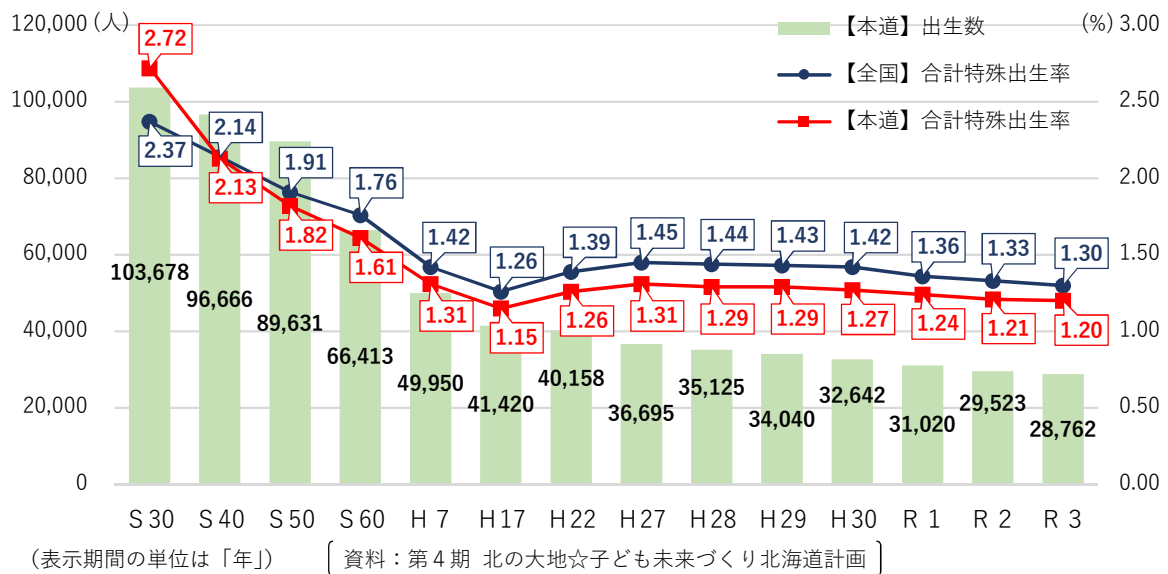


（表示期間の単位は「年」）〔資料：第8期 北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画〕

### (3) 少子化の状況

本道の出生数は、昭和31年以降に年間10万人を下回った後、減少の一途を辿り、令和3年には約2万9千人となっています。

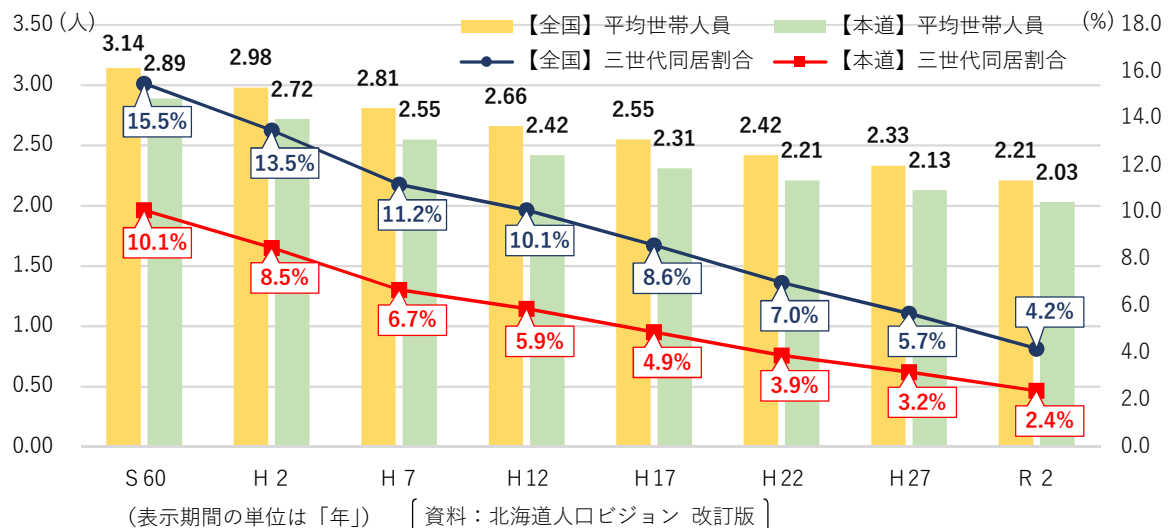
また、合計特殊出生率（15～49歳までの年齢別出生率の合計）は、昭和39年に初めて全国平均を下回り、令和3年には1.20（全国平均1.30）と東京都・宮城県に次いで全国で3番目に低い水準になっています。



### (4) 核家族化の状況

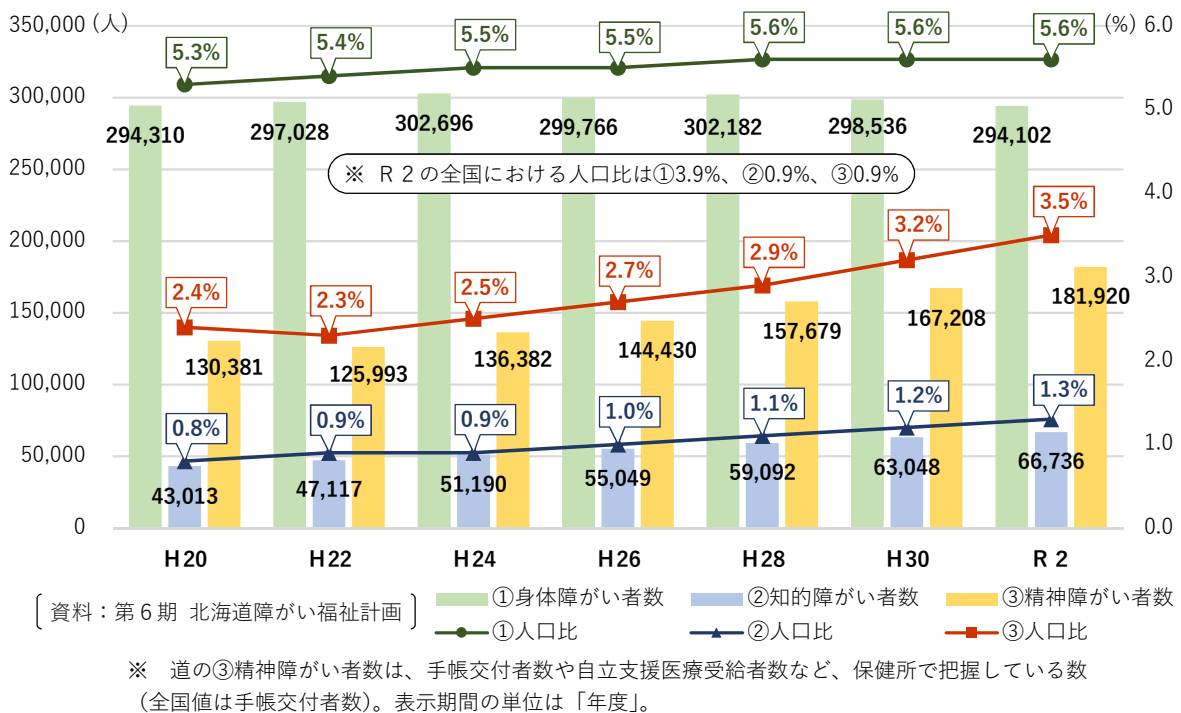
本道における世帯構造の推移については、平均世帯人数や三世帯同居世帯の割合も減少傾向にあり、核家族化が進んでいます。

令和2年時点での平均世帯人数は2.03人、三世帯同居世帯の割合は2.4%となっており、全国よりも核家族化が進展している状況です。



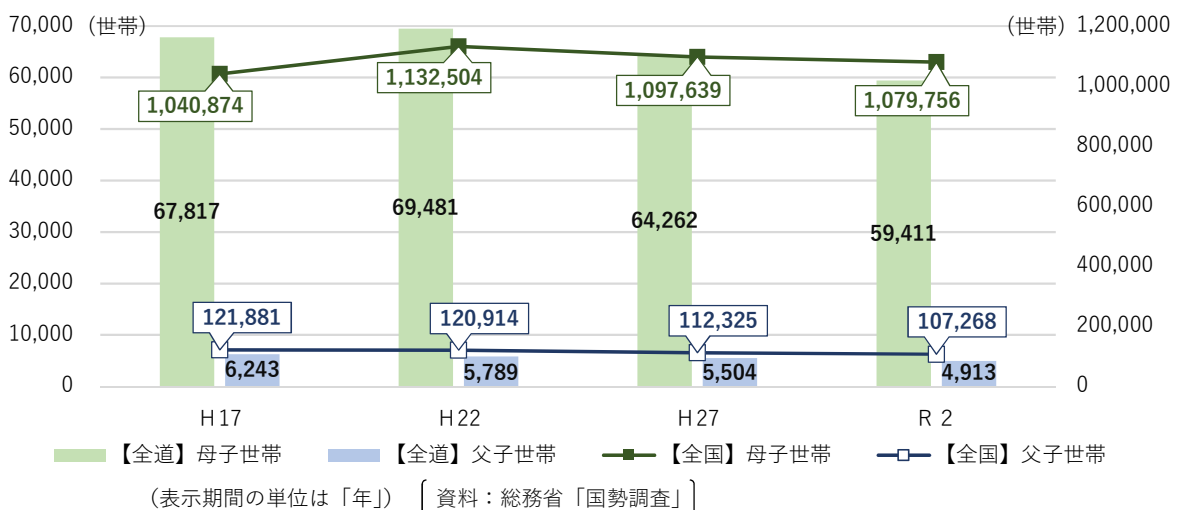
## (5) 障がいがある方の状況

本道の人口に占める障がいがある方の割合は、高齢化の影響などによって年々増加し、令和2年度末では身体障がい者が5.6%、知的障がい者が1.3%、精神障がい者が3.5%となっており、これらの割合は、いずれの障がい種別についても、全国平均を上回っています。



## (6) ひとり親家庭の状況

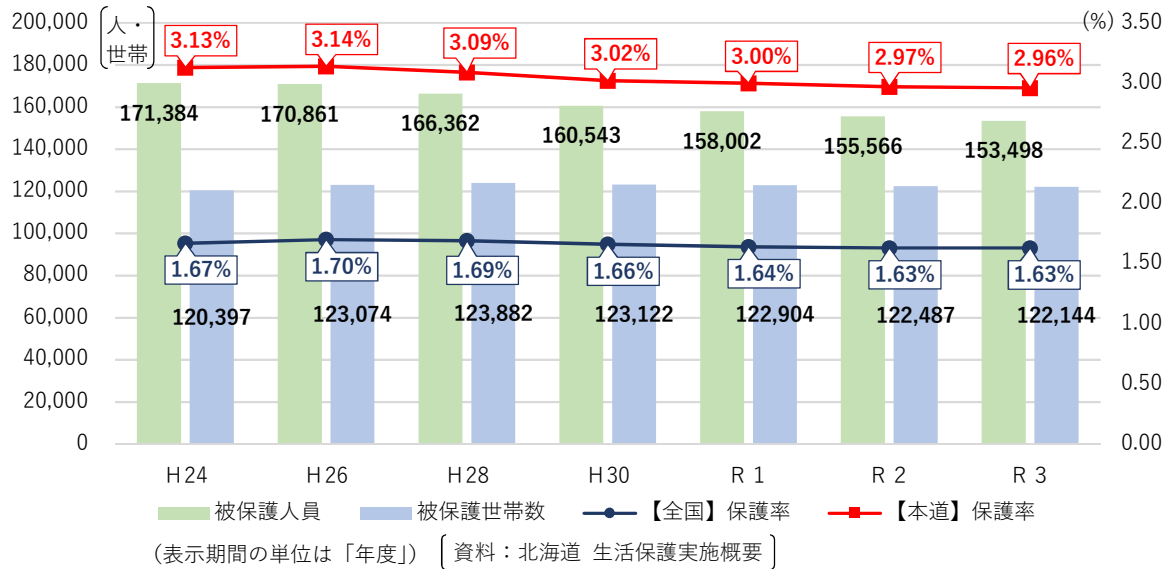
本道におけるひとり親家庭（父母の一方がいない20歳未満で未婚の子を養育する世帯）は、母子世帯・父子世帯いずれについても、全国値と同様、減少傾向にあります。



## 2 福祉的な支援を必要とする方の状況

### (1) 生活保護の状況

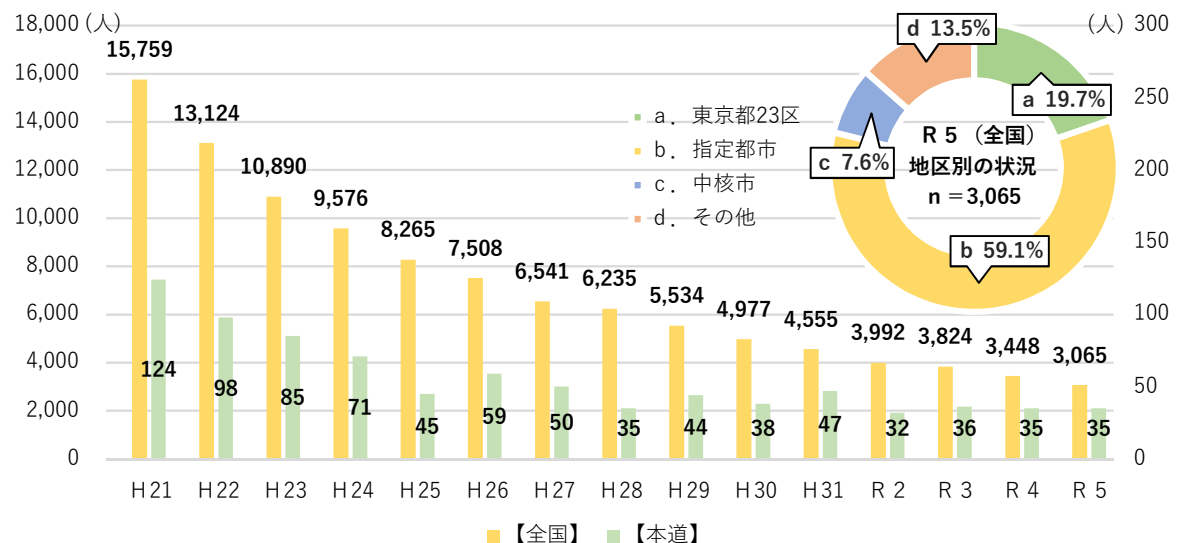
本道の被保護世帯数は、平成28年の123,882世帯をピークとして、その後、緩やかに減少しており、被保護人員も同様の傾向ですが、保護率（人口百人当たり）については、引き続き全国を上回る水準で推移しています。



### (2) ホームレスの状況

本道におけるホームレスの数は、全国値と同様、基本的には減少傾向にあり、平成28年に40人を下回りましたが、以降、概ね横ばいの状況が続いています。

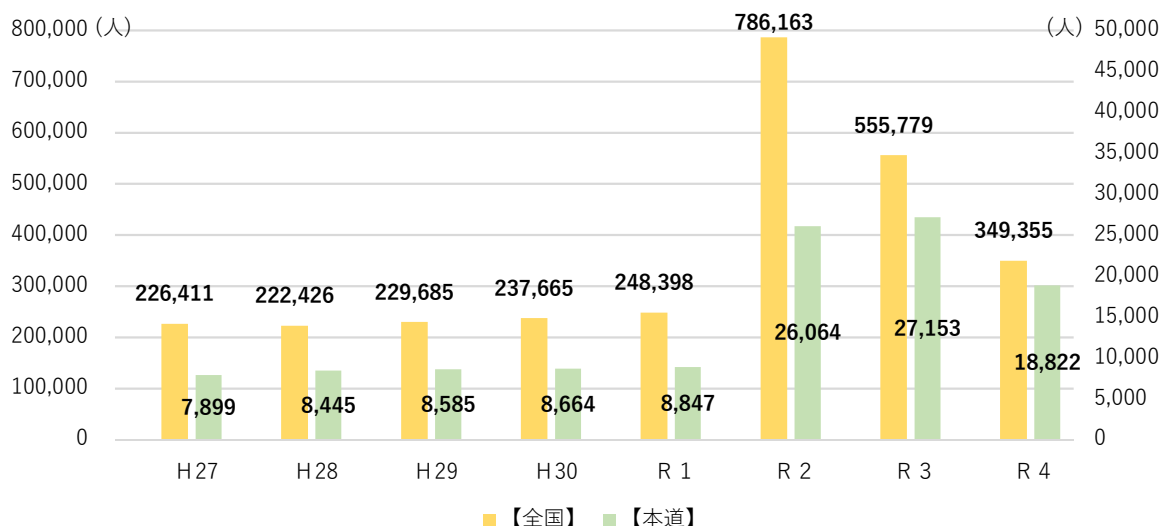
また、全国における地区別の状況については、東京都23区と指定都市の合計が約8割となっており、都市部に集中している傾向が認められます。



[資料：厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）」]

### (3) 生活困窮者の相談状況

本道の生活困窮者自立支援機関における新規相談件数は、平成27年の制度創設以降、全国値と同様、概ね横ばいの状況が続いていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年に急増し、その後も引き続き高い値となっています。



(表示期間の単位は「年度」) [資料：厚生労働省「生活困窮者自立支援制度支援状況調査」]

### (4) 孤独・孤立に関する状況

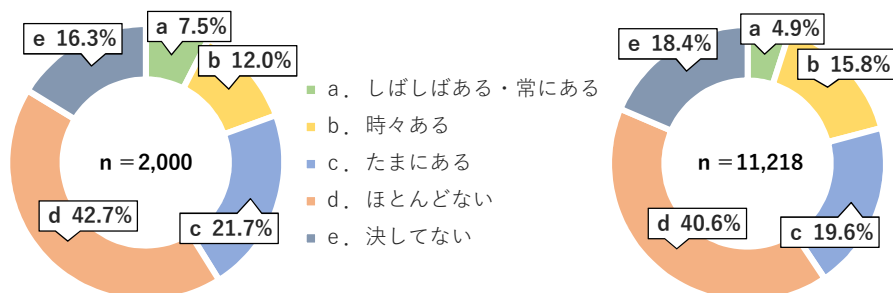
本道における孤独・孤立の実態を把握する目的で令和4年度に行った道民向けアンケート調査では、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は7.5%、「時々ある」が12.0%、「たまにある」が21.7%となっており、同時期の国による調査結果と概ね似た傾向が認められました。

※ 道調査と全国調査は、概ね同時期に実施したものだが、調査方法等が異なることから（前者はWebモニター方式、後者は無作為抽出方式）、必ずしも単純比較できるものではない。

#### 道 道民向け孤独・孤立状況把握調査

#### 国 孤独・孤立の実態把握に関する全国調査

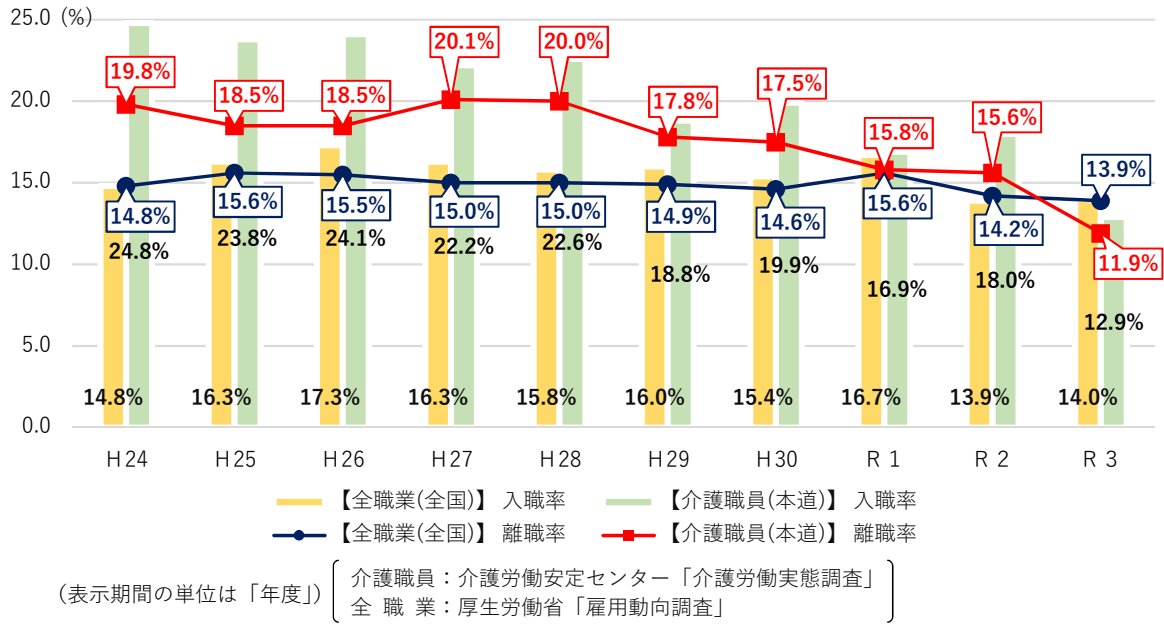
あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。



### 3 地域福祉を支える人材確保の状況

#### (1) 介護職員の入職率及び離職率

本道における介護職員の入職率及び離職率(常用労働者数に対する入職者・離職者数の割合)は、他の職業に比べて高い状況にありましたが、いずれの割合についても、令和3年度に下回ることとなりました。



#### (2) 民生委員・児童委員の充足率

本道における民生委員・児童委員の充足率は、全国値と概ね同水準で推移していますが、高齢化の進展等によって年々低下しつつあり、担い手の継続的な確保が課題となっています。

